

家計消費 実質4.2%減

総務省が8日発表した6月の2人以上世帯の家計調査によると、1世帯当たりの消費支出は27万5545円と、物価変動の影響を除いた実質で前年同月比4.2%減少しました。マイナスは4カ月連続。新型コロナウイルス感染症拡大時の「巣ごもり需要」の反動や物価

家電・食料で支出減少

高などで、家電製品や食料向け支出が減少しました。消費支出を構成する10項目のうち8項目で前年同月を下回りました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」へ移行して外出機会が増え、エアコンなど家電製品を含めた家具・家事用品が

17.6%減少。格安プランの普及で通信が10.6%減、物価高の影響で食料向け支出は3.9%減となりました。一方、コロナ明けで外出を伴うサービス消費は好調でした。外国・国内のパック旅行費を中心とする教養娯楽サービスは4.1%増、外食は1.8%増となりました。ただし、外食の伸びは5月の6.7%増から大きく縮小しました。消費支出は前月比べー

スで見ると実質0.9%増(季節調整済み)と5カ月ぶりにプラスに転じたものの、物価高の長期化で家計の節約傾向が強まっていく(関係省庁)との分析もあります。勤労者世帯の収入は実質で前年同月比5.6%減と厳しい所得環境となっており、消費支出が再び低迷する可能性もあります。